

5. 皮下組織の炎症（蜂窩織炎）

皮下組織の主な成分は、脂肪です。厳密にいうと皮下脂肪が皮膚と言えるかは問題ですが、表皮、真皮とともに内部を守る働きがあります。

蜂窩織炎：表面から黄色ブドウ球菌が入って化膿して起こる炎症は、表皮に起こると伝染性膿化疹（とびひ）、真皮に起こるものは丹毒（面疔）が有名です。真皮を越えて、皮下組織まで入って炎症が広がるのが**蜂窩織炎**です。顔や手足によく見られ、発疹の境界不明瞭な炎症が急速に広がるのが特徴です。指先にできる瘰癧はこの仲間です。炎症ですので、発赤、腫れ、痛み、熱感が局所に見られますが、進むと高熱が出て続きます。ちょっとした傷に無関心でいて、表皮、真皮に炎症が広がってきたのも数日間放置して、気がつくとき赤く、熱を持った腫れが一気に広がってくるというパ

ターンです。

治療は抗生物質ですが、内服剤が十分効かないケースが多く、点滴・注射をすることが一般的です。また、深く比較的血管の少ない脂肪組織にも広がるため、抗生物質が効きにくく、2週間ほど使い続けなければならない例も多いです。

夏は皮膚を清潔に！

夏は、紫外線以外にも皮膚を傷めやすい季節です。代表的な化膿菌であるブドウ球菌やカビが増えるのが原因です。まずは以下に気をつけてください。

- ①傷を放置しない：局所の水洗と消毒。
- ②ひげそり時の注意
ひげ剃り後、カミソリを放置せず水洗する。剃った局所にアフターシェーブローションを塗っておく。（アルコール消毒です。）
- ③外の作業は手袋をして傷を受けない。

編集後記

台風が去り、梅雨も明け、一気に気温が上がってきました。少し前は自転車で走ると爽やかでしたが、このところスピードを上げて汗が乾かず、かえって髪の毛から垂れてきます。いよいよ夏ですね。海の日も過ぎ、海岸は若い人たちで賑わい始めました。おかげで、海辺の歩道は通りにくくなってきました。鎌倉の各道路も車が使えない時期を迎えつつあります。こんな状況から脱出するために、7月の連休は日光方面へサイクリングに行ってきた。水上温泉から自転車に乗り、金精峠を越えて奥日光に下り、湯元温泉に宿泊。翌日は山王林道を越えて間欠泉で有名な川俣温泉に入り、栗山村から今市、宇都宮へと走りました。途中、大した雨にも降られず、夏としては気持ちよくペダルをこぐことができました。坂道を上った足の疲れを湯ノ花が浮く硫黄泉で癒し、キノコや湯葉づくしの料理に舌鼓を打ち、梅雨明け間際の戦場ヶ原ではほんの少し薄日が差す朝霧に包まれ、道路に飛び出す猿に驚き、名物の餃子を食べながら湘南新宿ラインに乗り込み旅を終えました。東京から北に行くことは近年希でしたので、日光が思ったより近かったことは新発見でした。都会では、豪雨や雷で大変な地域もあったようですが、山中にいてひどい目に遭わなかったことは幸運でした。お陰で秋にもまた、どちらかへ足を伸ばしたいとの思いに駆られています。ばてやすい季節のさなか、皆様にはくれぐれも熱中症に注意を払い、楽しい夏を過ごして頂きたいと思っております。

山口内科

〒247-0056
鎌倉市大船3-2-11
大船マールビル201

(夏休みのお知らせ)

8/8 9/10 11/12 13/14 15/16 17/18

9日は、12時まで終了です！ ← 休み → 通常

<http://www.yamaguchi-naika.com>

電話 0467-47-1312

すこやか生活

Yamaguchi
Clinic



目次: ページ

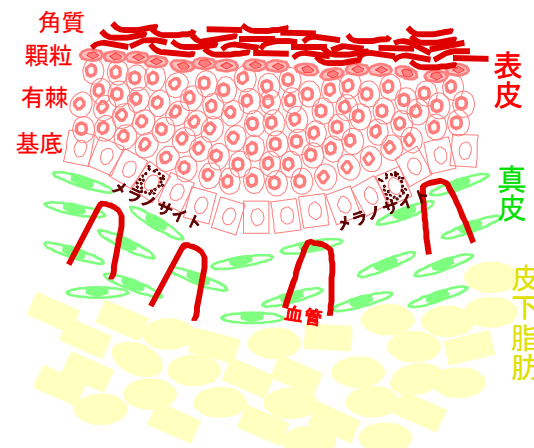
皮膚の構造と働き	1
表皮の病気	2
真皮の皮膚病	3
発疹の深さの見分け方	3
皮下組織の炎症	4
夏は皮膚を清潔に！	4
編集後記	4

1. 皮膚の構造と働き

皮膚は、体内で最大の組織の一つです。体の外表面を覆い、表面から順に、①表皮、②真皮、そして③皮下組織(脂肪)できており、その下は筋肉などです。表皮は皮膚のもっとも皮膚たる部分で、4つの細胞層で成り立ちます。一番底から基底細胞層、有棘細胞層、顆粒細胞層そして、角質層です。基底細胞は一層で、盛んに細胞分裂して、そのまま基底部に残る細胞と、表面に上がっていき有棘細胞に進むものとあります。この細胞は、皮膚の各細胞の元になり、新陳代謝の中心的な細胞層です。また、細胞分裂、増殖をしている部分は、ここだけです。基底細胞は有棘細胞、顆粒細胞へと進んでいくにつれ、徐々に老化し、役目を終えます。顆粒細胞から角質になる時点で、細胞は寿命を全うし、死骸のケラチンタンパクだけになります。この角質が剥け落ちたものが、いわゆるフケやアカです。基底から角質までの表皮の細胞は、新陳代謝でおよそ4週で一皮剥けて置き換わります。表皮は、一部日焼けやシミの原因

となるメラニンを作るメラノサイト以外は、全て表皮細胞でできています。最外層は丈夫な角質タンパクでできています。表皮はどの部分がはがれ落ちても、次々と下から盛り上がり再生し、最前線まで体を守る働きをしています。

真皮層は、紡錘形の線維芽細胞とコラーゲンなどの線維、そして、血管やリンパ管、神経などで成り立ちます。血管



や神経の無い表皮層を支える、サポーターの働きをしています。皮は一皮むけても表皮までなら痛くも痒くもなく、出血もしません。真皮層まで剥けたり傷つくと痛みを感じたり、出血や、浸出液がしみ出します。

最も深いところには、余剰の栄養を溜めておく、皮下組織(脂肪)があります。ここは、栄養の補給庫だけでなく、外部からの

2. 表皮の病気

表皮は、基底層から角質層までなので、その間に起こる問題は、①角化異常症、②表皮の剥離、そして、③表皮内の水疱や血腫です。

角化異常症

皮フの新陳代謝(置き換わり)は、基底細胞から角質層まででおよそ2週間、角質層がはげ落ちるまでもう2週間かかります。このサイクルに狂いが起き、細胞分裂の速度が上がると表皮細胞の数が増えて皮膚が分厚くなります。しかし、厚くなっても一定の速度で角化し剥がれていかなければならないので、中途半端な角化のままどんどん剥離していくのが角化異常の特徴です。皮膚ががさがさで、所々剥けていたり、薄皮やふけのようなもので包まれていたり、粉をふいているのがそれです

うおのめ(鶏眼)、たこ(胼胝)

どちらも皮膚に摩擦や圧迫などの物理的な刺激が長期的にかかり、その刺激から内部を守るため、角質層が分厚くなった病変です。胼胝は底が平らなもの、鶏眼は基底層に向かって角質層が肥厚・成長し、中央に芯を持ったものです。尿素系のウレパールで溶かしたり、スピール膏を貼って表面と芯を柔らかくふやかして取ります。表皮内なので、出血や痛みは起こりません。

水疱・血まめ・膿疱

表皮内、または表皮と真皮の間に亀裂が入り、そこへ血液やリンパ液などの水様成

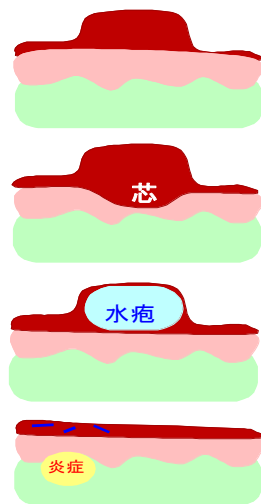
衝撃を弱めるクッションで、外部の寒さから、筋肉以下の内部を守る断熱材の働きもしていません。真皮には血管があり、熱を逃がすラジエータの働きほか、炎症細胞が動員するので、その下まで問題が波及すると炎症が起こります。

以上、皮膚の三層構造をお示ししましたが、皮膚に問題が起こったときは、それがどの層に起こったものかイメージできれば解決に近づきます。

分が染み込んでたまったものが水疱です。破れて痛くないのが表皮内水疱で、痛みがあるようだと一部真皮を巻き込んだ水疱です。血まめは表皮と真皮の境界や真皮に血液がたまって袋状になったものです。血管の破綻なので必ず真皮に問題が起きています。皮膚表面にプツツと小さな黄色の円形のできものは膿疱です。

水虫(皮膚白癬)

カビである白癬菌は角質層にいます。その下の真皮どころか、表皮の各細胞の間にもいません。なのに神経を刺激するかゆみはどうして起こるのでしょうか?それは、白癬菌という抗原に対する、アレルギー反応が真皮に起こるからで、赤くなったり、神経がかゆく感じるのは炎症のせいです。抗真菌剤で白癬菌が死んでも、抗原が残っている間は、しばらくかゆみも残ります。



たこ(ペンだこ等)
角質層が物理的な刺激に対応し肥厚する。

うおのめ(鶏眼)
深部方面に肥厚した角質層が、芯を作る。

水疱
表皮層に水野溜まった袋を形成する。血豆、膿疱もできる場所は同じ。

水虫
白癬菌(一)は、角質層にいます。

3. 真皮の皮膚病

真皮層は、間質と呼ばれ、線維芽細胞だけでなく、血管、リンパ管、神経があり、組織を支え保ったり、外的から内部を守る免疫反応を起こすことができる場所です。このような構造上の問題で、傷が真皮まで及ぶと、出血し痛みを覚えます。また、アレルギーや細菌感染による炎症がここにあります。

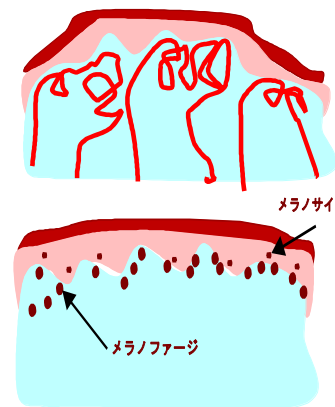
じんま疹: アレルギーで起こる、真皮の炎症と血管の拡張やそこからしみ出る水分の貯留で、膨疹と呼ばれる径5-10mm程度のかゆみを伴う膨隆が特徴です。蚊に刺されたときの皮膚のふくらみやかゆみとそっくりです。その理由は、蚊に刺されると、真皮に蚊の体の一部が抗原として入るので、それに対するアレルギー反応が起こるからです。もうおわかりかと思いますが、全身のじんま疹か、局所の虫さされかの違いはあるものの、起こっていることはほぼ同様なので、見た目もそっくりです。

皮膚の色素沈着: アトピー性皮膚炎や様々な炎症で、その局所が焦げ茶色の色素沈着が起こっているのをよく見かけます。焦げ茶色の成分はメラニン色素と呼ばれ、表皮最下層の基底細胞付近にあるメラノサイトで作られます。このメラニンは、メラノサイトから上皮の基底、有棘細胞に渡され、表皮細胞全体が濃くなり(日焼け=ピンクの部分茶色になる)、紫外線などが

ら表皮以下を守っています。表皮の細胞だけの色素沈着なので、表皮の新陳代謝のサイクル、つまり4週間程度で黒い部分ははがれ落ちます。様々な炎症で、真皮の上層が破壊されると、深部に色素が染み込み、真皮にあるマクロファージという白血球の一種に取り込まれます。この細胞はメラノファージと呼ばれ、真皮に居座るので長きにわたって皮膚の色素沈着が残ります。

湿疹: 真皮の浅い部分に炎症が起き、その部分が表皮を押し上げるように盛り上がった丘疹です。表皮の表面に小さい水疱を持つものもあります。

毛囊炎: 毛根の入っている毛穴の奥に黄色ブドウ球菌という皮膚に多い雑菌が進入して起きた炎症です。ひげそり負けでアゴのまわりにブツブツできる尋常性毛瘡やニキビの一部もこの仲間です。



じんま疹:
真皮層の血管拡張で表皮がプクッと膨隆したもの

皮膚の色素沈着:
基底層レベルのメラノサイトで作られた色素が真皮層にしみこみ、マクロファージに取り込まれて、長く居座る

発疹の深さの見分け方

炎症は基本的に真皮、皮下組織(皮下脂肪)に起こります。両方にまたがっている場合もありますが、輪郭と圧迫によってだいたいの深さが推測できます。

輪郭

表面に近いほど境界がはっきりしています。表皮や真皮の浅い部分にある炎症は、正常部との境界がくっきりしています。また、真皮の深部からは徐々に境界がぼんやりしてきて、皮下組織では、どこが境界なのかははっきりしなくなります。皮下組織が炎症の主な場所である蜂窩織炎は、境

界不明瞭な発赤と痛み発熱、ルーズな皮下組織を短時間に化膿菌が広がるのが特徴です。

圧迫

皮膚が赤くなっているとき、圧迫して消えないものは出血、消えるものは単純な血管拡張や、血管拡張を伴う真皮の炎症です。真皮に出血して溜まった血液(紫斑)はちょっと押したくらいでは消退しません。血管は血液の流れる柔らかいチューブなので、圧迫によって内腔がしぼみ、赤血球は押し出され赤みは消退します。押せば消えるこのような血管の拡張は、**紅班**と呼ばれます。